

溝縁ひろし  
写真展

GION  
Shōwa



HIROSHI MIZOBUCHI  
Photo Exhibition

# 昭和の祇園

花街とともに



2023 1.2 (月・振替休日) — 1.29 (日) 会期中無休

Museum [EKI] KYOTO

美術館「えき」KYOTO

JR京都駅下車すぐ・ジェイアール京都伊勢丹7階隣接

「舞妓と白川女」 昭和56(1981)年

©Hiroshi Mizobuchi





「市街と舞妓」 昭和53(1978)年

京都在住の写真家、清緑ひろし(1949-香川県生まれ)は、大学卒業と同時に、就職を機に京都へ移り住みます。休日になると趣味のカメラを片手に、京都観光をして過ごしていたそんなある日、夕暮れ時の四条花見小路で初めて出会った「舞妓」に心奪われます。一瞬にして別世界へ連れて行かれたその不思議な感覚、余韻はその後も消えることがなく、仕事が終わると祇園に足を運ぶようになりました。少しずつ顔なじみのできてきた頃、お茶屋のおかあさんに「舞妓さんをしっかり撮っておいておくれやす、いやはらへんようになるかもしれまへんさかい。」と言われます。舞妓さんの成り手が減っていた1970年代当時、現実味を得たその言葉に背中を押されて、京都の花街を写真で残していこうと決意します。花街はもちろんのこと、祇園町の日常風景を写すことも写真家としてのライフワークとなったのです。

本展では、昭和48(1973)年から撮り始めた「昭和の祇園」(祇園甲部)の作品を中心に、今日までの町の風景や芸舞妓の姿など約150点の作品を展覧し、写真家・清緑ひろしの活動50年を振り返ります。



「桜の真横」 昭和49(1974)年



「平だり」 昭和53(1978)年

## 清緑ひろし写真展 昭和の祇園 ～花街とともに～

### 清緑ひろし

1949年、香川県に生まれる。千葉工業大学卒業後、就職を機に京都へ移り住む。1973年、スタジオ勤務を経てフリーの写真家になる。1980年、写真事務所「PHOTO-HOUSE」を立ち、ライフワークとなっている京都・花街を中心に、京都の四季や祭事をはじめ、西園八十八ヶ所、西園三十三律などのテーマにも取り組む。また、海外取材や海外展覧など写真を通じて国際交流も積極的に行っている。書籍も多数出版。



「裏の一角」 昭和60(1985)年



「行ってくらね」 昭和48(1973)年



「おめでとうさん」 昭和58(1983)年

### 京都新聞ニュースカフェ特別講演会 「写真家・清緑ひろし ～花街を撮り続けること50年～」

- 日時＝2023年1月17日(火) 13:30-15:00(開場 13:00)
- 会場＝京都新聞文化ホール(京都市中京区烏丸通川上ル京都新聞ビル7F)
- 参加費＝500円(税込/オリジナルポストカード付)
- 定員＝先着150名(抽選券を交付)
- 詳細、お申込みは2022年12月1日(水)から  
右記の二次コードにて受付開始。
- お問合せ＝京都新聞COM開発推進部  
TEL.075(255)9797(平日 9:00-17:00)

詳細、お申込み



開館時間＝10:00-19:30 入館締切＝閉館30分前 入館料(税込)＝一般 900円(700円)/高・大学生 700円(500円)/小・中学生 500円(300円)

※( )内は観覧料金。「障害者手帳」をご提示のご本人さまとご同伴者1名さまは、当日料金より各200円割引。2022年11月11日(金)より2023年1月1日(日・祝)まで観覧券販売。販売場所＝当館チケット窓口(休館日を除く)、京都駅ビルインフォメーション、チケットぴあ、ローソンチケット。主催＝美術館「えき」KYOTO、京都新聞 後援＝京都府、京都市、公益財団法人京都伝統文化振興財団(おおきに財団)、公益社団法人京都市観光協会 協力＝祇園新地甲部組合、祇園甲部芸妓組合、学校法人八坂女紅壇学園、祇園商店街振興組合、八坂神社、南座、光村推古学院株式会社

©Hiroshi Maobuchi



美術館「えき」  
KYOTO

お問合せ ジュエール京都伊勢丹 TEL.075(352)1111(大代表)  
美術館「えき」KYOTO 公式ホームページ <https://kyoto.wjr-isetan.co.jp/museum/>  
公式Twitter @ekimuseum



公式LINEアカウント



※展示作品やイベント内容が変更、または中止になる場合がございます。予めご了承ください。 ※入館の際、マスク着用・検温・消毒をお願いしております。